

ほんじょうぐるわ
本城曲輪の成果



昨年度に引き続き、米曲輪から本城曲輪へかけて、土塁が切れた通路状部分を調査しました。当初土塁と考えられていた部分から階段状に石が敷かれた遺構が出土した他、溝状遺構や石組遺構が並行して見られました。他に本城曲輪へ通じる開口部は見当たらず、本調査地点が出入り口（虎口：こぐち）に関する遺構の可能性が高まったと言えます。

階段状遺構

こめぐるわ
米曲輪の成果



石列遺構



同様に石列遺構が見つかっています。1トレンチから出土した石は特に大きく、あるいは用途が違うのかもしれませんが。



昨年度の調査で確認されていた遺構

今回新たに発見された石列遺構

L字にカーブした遺構に並行して新たに石列遺構が発見されました。階段状遺構へ向かって伸びており、米曲輪から本城曲輪への通路を区画する遺構と考えられます。

財団法人
かながわ考古学財団
〒232-0033
神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
TEL:045-252-8689
ホームページ: <http://www.kaf.or.jp/>

津久井城跡（山頂部）遺跡見学会資料

主催：財団法人 かながわ考古学財団
共催：財団法人 神奈川県公園協会
後援：神奈川県津久井土木事務所
相模原市教育委員会

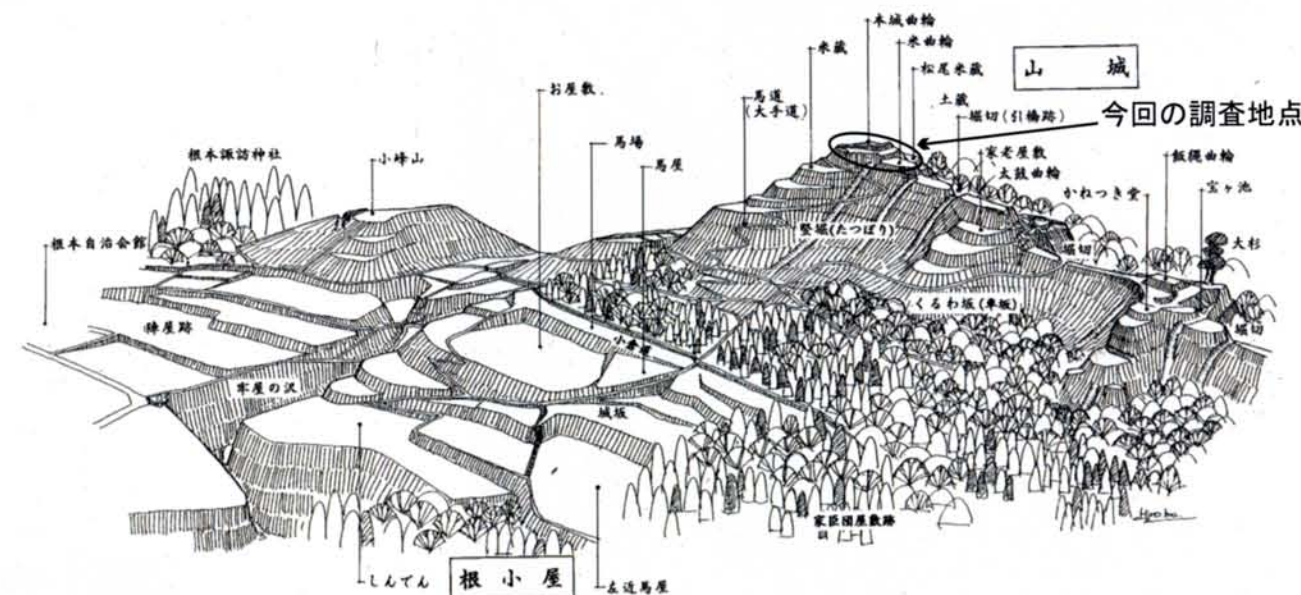
平成21年5月16日

当財団では県立津久井湖城山公園の整備に伴う確認調査として、平成21年4月16日から5月31日まで埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

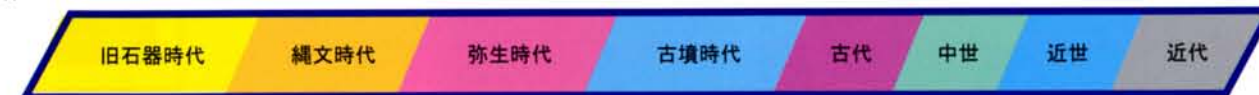
津久井城は城山の峰のほぼ全体を利用した中世の城郭です。平時には麓で生活し、有事になると山城に登り備えるもので、今回の見学会でご案内するのは、その中の山頂部に位置する本城曲輪群になります。これまでの調査から戦国時代の城に関係すると考えられる遺構が発見され、当時の遺物も出土しました。今日はその一部を紹介します。

津久井城の歴史

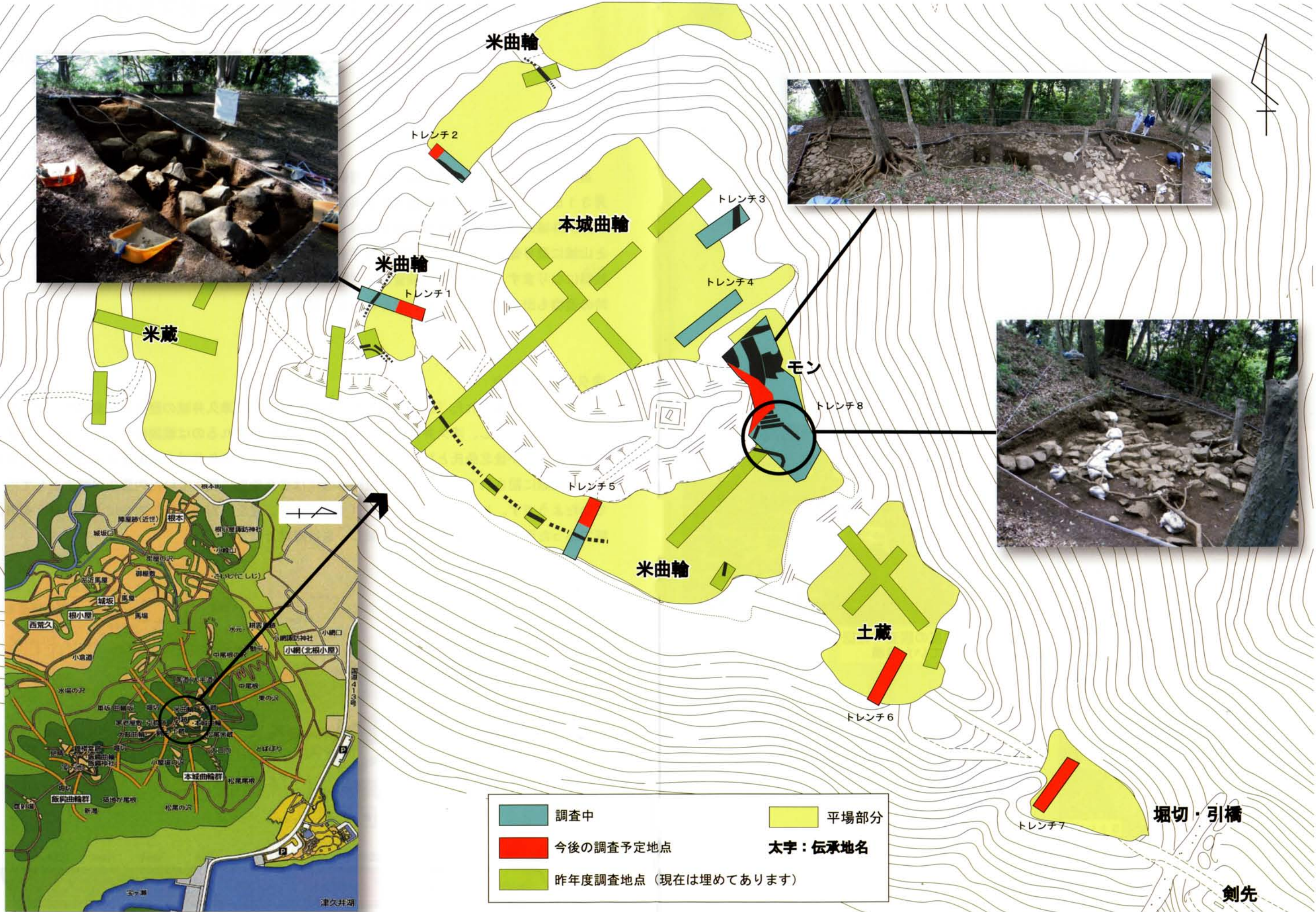
江戸時代に編纂された「新編相模國風土記稿」によれば津久井城の歴史は鎌倉時代にまでさかのぼります。しかし、津久井城に関する具体的な史料が現れるのは戦国時代になってからです。甲斐の武田氏が後北条氏と抗争を繰り返していた頃には、津久井城も武田氏によって攻められたことが文献に記されています。16世紀半ばには後北条氏に属していた内藤氏が城主として治めていたようです。しかし、天正18年（1590）、豊臣秀吉の小田原攻めにより、後北条方の城であった津久井城も攻められて落城し、以後廃城となりました。







おおよその年代 紀元前3万年 紀元前1万年 紀元前400年 300年 700年 1200年 1600年 1900年



※矢印は今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。



- | | | | |
|---|----------------------|---|------|
|  | 調査中 |  | 平場部分 |
|  | 今後の調査予定地点 | 太字 | 伝承地名 |
|  | 昨年度調査地点 (現在は埋めてあります) | | |